

# MINAMISOMA

南相馬市サポーター 会報誌  
magazine for  
minamisoma supporter

ミナミソウマガジン  
2024 summer

騎馬武者と  
お客様のあいだで  
相馬野馬追を  
支える人々



MINAMISOMA

## 目次 Contents

- 2 騎馬武者とお客様のあいだで 相馬野馬追を支える人々
- 7 職員と肩を並べて 高校生のお役目
- 他にもいろいろ 縁の下の力持ち
- 10 なんだか気になるみなみそうま  
「相馬野馬追 日程変更の変遷」
- 8 “岩井軍者”にとつての相馬野馬追
- 9 はるばる遠くから、いつもの地元で、私たちもサポートー
- 11 侍の日常
- わたしの推しみやげ

野馬追に出場する騎馬は400ほど。一方で、その運営を支える人たちの数は、市の職員だけでのべ800人以上にのぼります。二日間の行事をつつがなく行なうためには、実は舞台裏でもたくさんのが闘闘が繰り広げられているのです。150年ぶりに7月以前に日程が変更になった節目の今年。受け継ぐものとえていくもの、その結び目で衆々と開催をサポートする人々の姿を収め、声を聞きに行きました。

※今号はぜひ、『ミナミソウマガジン Vol.5』と共に  
にお楽しみにください。



# 相馬野馬追を 支える人々

## 騎馬武者と お客様のあいだで

Minamisoma Life with Somanomaoi



沿道で、祭場地で。  
朗々と響く声



「威風堂々の進軍でございます。沿道のみなさま、盛大なる拍手を持ちましてお迎えいただきたいと存じます」総大将が沿道を通りかかるときは、実況の熱も最高潮。馬が歩くスピードと口上がりたりと合うように、村井洋幸さんは、後輩の合図や状況に合わせて話し出し、体でリズムをとりながら発声します。沿道はどつと湧いて、割れんばかりの拍手。殿様の御成の輝かしいひときの共有や、騎馬武者の勇姿を観衆に伝えるために、放送係は野馬追に欠かせません。

村井さんが、先輩から放送係のバトンを渡されて10年ほど。今は甲冑競馬や神旗争奪戦の実況も担当する放送係のエースです。

後方支援役の齋藤ひとみさんは、15年間野馬追の日は放送に従事しています。今はメンバーをまとめるいわば管理業務が主ですが、欠員が出ればすぐに代打に立てるよう準備もぬかりありません。

「野馬追が近くなると、必ず家で音読して練習しておきます。毎年のこととはいって、読んでおかないとやつぱり噛んじゃうんですよ」（齋藤さん）

市役所職員に割り当てられる当日の役割はさまざまですが、放送係に関してもこれまで、一度その役につければ毎

人がいて、本番が近くなれば早朝練習をしていたから、身近ではありましたけど。それがいろいろな手伝いをするようになって、さらに放送係になつてぐつと身近になりました。本番前には家で原稿を読んで練習するでしょう。年一回だけ、そうやって繰り返していくと、なるほどそだつたのかと、歴史を再確認できる。その過程で自分にとって野馬追の存在がより大切になつていった感じがあります。子どもたちも、自然と聞いているみたいで、それはよかつたなと思いますね」

そう振り返る齋藤さんは、「声の仕事」は野馬追に限られますが、そこに懸ける気合いは十分です。

「沿道なら、馬が歩いて通り過ぎるのと原稿を読む速度がバシッとはまるとなつて野馬追の存在がより大切になります。野馬追の名前を呼びたいタイミングにはばっちり合つた時があつて。その瞬間、ぴたつと殿様と目があつた気がして。気持ちよかつたなあ。あれからずっと、その瞬間を超えてみたいと思いつながら続けています」（村井さん）

昨年までは、合団を出す人はおらず、手製の舞台を首にかけ身を乗り出していくながら続けていました。難しさゆえの会心の出来だからこそ、心にしかと刻み込まれた思い出です。



左：齋藤ひとみさん／健康福祉部 社会福祉課 社会福祉係長。放送係歴は15年  
右：村井洋幸さん／財政課 財政係長。放送係歴約10年

冒頭の口上も、側から見れば素晴らしい出来ですが本人にとっては「ちょっとタイミングが遅かった」とのこと。

「馬の行列は、体感より速いから難しいです。沿道のお客さんはだいぶ慣れたけれど、今年は後輩にいいところを見せて思つてちょっと力が入っちゃつたかな」（村井さん）

こんなふうに話すのは、今年の野馬追は、日程だけでなくサポート体制にも変化があったから。これまで専門性がある持ち場には経験豊富な人が固定で配置されました。今後は部署ごとに持ち場が割り振られることになつたかな」（村井さん）

市役所の会議室で、齋藤さん・村井さんの2人に放送係の仕事について聞かせてもらいました。こういうときでも、さすが放送係。声のトーンや喋り方が聞き取りやすく、話が弾みます。思わず「プロですね」と言うと、こんな答えが返つてきました。

「最初は大変でしたよ。直接お客様をに見られながら話す沿道に出たときは、訳もわからないくらい緊張して。もう、ドキドキもいいところ」と齋藤さんが言うと、村井さんも「そうそう。私も一緒に」と同意します。

「市役所の職員になるまでは、野馬追に直接関わることはありませんでした。子どもの頃は、周りに馬を飼っていると同様です。

年続けるのが慣わし。それだけ資質や積み重ねがものをいう特別な仕事です。沿道・祭場地など数箇所に配置される今年のメンバーは17名。一年に一度、相馬野馬追を無事に開催するため、同じ方向を向いて一致団結するから、楽しいというよりも終わったときの達成感がある」と齋藤さん。放送係が待機する本部では、パリッとした緊張感のなかにも、テキパキ、ワイワイした朗らかさが見られて、祭りの裏舞台の活気が心地よく感じられます。

たのです。唯一、経験者が必要と判断された放送係を除いては、ただし、来年以降はどうなるか……。2人の胸中には寂しさもあるといいます。

たくさんの変化のなかでも変わらないこと

今後、放送はプロに任せるという一案もあるようです。そんな可能性を考えると、連綿と受け継いできた放送係の歴史や、地元で暮らす職員が放送を担う尊さをあらためて感じじにはいたりません。

「すごく印象に残っているのは、なんでも臨機応変にできる先輩が客席に向かって『東京からお越しの鈴木さん、仙台からお越しの山田さん、お越しただきありがとうございます』みたいなことを言って盛り上げていたこと。後で聞いていたら、適当に言ってたんですよ。でも、すごいなあプロだなあって感心しましたね」（齋藤さん）

「神旗争奪戦や甲冑競馬の実況だけで、何年か前に台本ができるまで、みんな原稿なし。全部アドリブで、目の前で起こっていることをすごくうまく描写していました。今はベースの原稿があるから安心して話せる。とはいっても、すごいぞと思ったんだけど、タイミングを考えてたら、うまく言えなくて。

## 職員と肩を並べて 高校生のお役目



▲市役所での打ち合わせで段取りをしっかり確認

初めての野馬追放送で初めての放送係ユニフォーム▼



▲1年生はこの日が放送部としての業務デビュー



▲同志のような放送係と放送部。来年もきっと続く

野馬追が迫ってくると問い合わせが急増。さまざまな難問も寄せられます。なかには「野馬追ってなに?」なんていう根本的な質問も。また行列後は馬の落とし物についても連絡があり、すぐさま駆けつけ回収します。

人間だけでなく、馬の体調不良にもしっかりと備え、獣医さんと協力して騎馬の救護を行います。熱中症の心配は少し軽くなつたものの、人馬入り乱れる野馬追を安心して開催するための要です。

電話応対・馬糞係／  
（事務局）



お行列の騎馬武者たちが祭場地へと入る門を開閉する係。限られた車両や人、馬しか入れない馬場、門内外の状況に応じて、何度も重い扉を開閉する重労働です！

招待者、職員の弁当、騎馬会等の酒運搬を行なう係。時間通りに滞りなく届けるのは至難の業！市内の地理を熟知して縦密なルート設定が要求されます。

正門係／



縁の下の力持ち  
他にもいろいろ

駐車場誘導や来賓案内のような定番から、野馬追ならではのサポートまでの細やかな分担がある祭事の三日間。こんなこともしているんだ！と取材で知った内容とは、「多くの人に届けたい」というプロ意識を感じるものでした。

騎馬救護係／



食糧係／



市内で暮らす齋藤さん、村井さんは、沿道で知り合いの騎馬武者について解説したり、祭場で活躍を実況したりする機会もたびたび経験してきました。最初の頃は自分の同級生が甲冑競馬で優勝して、内心テンションがすごくあがつたりしてね。今は、息子の同級生が立派に役目を果たしている姿を見るのは、になってきて、時代の流れを感じます。野馬追に出る人はみんな早朝から練習して仕事や学校に行くでしょう。すごいですよ。知り合いに肩入れしきぢゃいけないけど、がんばつているのを知っていると伝えるときに熱量は増えます」（村井さん）

「やっぱり、みなさんのこと、上手に紹介したいですよね」（齋藤さん）

騎馬武者たちが輝くように、ベストなタイミングで声を出せるか。放送係の真骨頂である野馬追を支える気概を、若い人たちにも共有していきたいとふたりは願います。

武家の訓練から神事へ。そして観光としての役割も担うようになった現代の相馬野馬追。そこには、一丸となつて支える市役所職員の存在も欠かせないものになっています。千年続く歴史の担い手となって、次の世代にバトンを渡す。その想いは、表舞台に限らず舞台裏からの情熱によって支えられているのです。



もっと盛り上げられたはず。悔しいなあ」（村井さん）

市内で暮らす齋藤さん、村井さんは、沿道で知り合いの騎馬武者について解説したり、祭場で活躍を実況したりする機会もたびたび経験してきました。

悔しいな

## ”岩井軍者“にとつての相馬野馬追

市役所職員全員が相馬野馬追のサポートをするなかでも、「あの人熱はすごい」といわれる存在がいる

という噂を入手。親しみを込めて周囲から「軍者」とまで言われる岩井孝文さんと野馬追の関わりについて聞きました。

——野馬追への情熱は、職員になつた頃から持ち続けていますか。



市役所職員全員が相馬野馬追のサポートをするなかでも、「あの人熱はすごい」といわれる存在がいる

という噂を入手。親しみを込めて周囲から「軍者」とまで言われる岩井孝文さんと野馬追の関わりについて聞きました。

なつた頃から猛暑が課題だったから、シャワーワークのホースを持ってきて地面や馬にもかけてたんですよ。ただ、実は自分が熱中症になっちゃって……。馬も人も辛かったから、5月へ日程変更してよかったです。

——山頂の場内整理はなかなか過酷なのですね。

岩井..いえいえ。新人の頃は上司や先輩に言われるがままでしたよ。10年目に、事務局を務める課に配属になったのは大きかったです。その時は2年で異動になりましたが、また15年経つと2018年にも観光交流課に配属になり、再び事務局に。野馬追を主催する騎馬会と一緒にお祭りをつくりあげる役割だし、三日間だけじゃなくて、春秋の競馬や、正月の行事、イベントへの出張など年間を通して関わるようになるんですよ。

実際に野馬追に出る人たちと距離が近くなつて、一緒に盛り上げたい気持ちが強くなりました。

——山頂警備の役割のときは、水を撒いたり、今年は旗が引つかからないように松の枝を短く切つたり、「決められた仕事」以外もやつていて姿を見て、仲間内から「軍者」と呼ばれるのでしょうか。

岩井..軍者っていうのは、最初は冗談で自分で言つていたんだけどね(笑)。散水については、2回目に事務局に

岩井..そうですね。私が担当していた2年間は、事故なく終わってホッとしました。馬も人も時には車も入り乱れますから、怒鳴るくらいに「馬の後ろに気をつけて」と言つてますね。蹴られたら大変ですから、そのくらい力が入っちゃいます。

——岩井さんにとつての野馬追とは。

岩井..「大好きな仕事」です。厳しい訓練を積んで出場する人たちのことをすごく尊敬しているので、いかにサポートするか。楽しいかどうかより、つづがなく終えられたときの達成感がたまらない「仕事」なんです。

野馬追は、参加する馬の数としては、世界一の祭りだともいわれています。馬がこれだけたくさんいるから、予想外なこともたくさん起ころる。サポートの難易度も高いからこそ、すべて終えた後の仲間とのビールが最高なんですね。

## はるばる遠くから、いつもの地元で、私たちもサボーラー

地元じゃなくても  
参加できる!  
北海道から参加

野馬追ボランティア



北海道から参加

野馬追ボランティア



北海道から参加

野馬追ボランティア



北海道から参加

野馬追ボランティア



北海道から参加

野馬追ボランティア



北海道から参加

野馬追ボランティア



北海道から参加

野馬追ボランティア



北海道から参加

野馬追ボランティア



北海道から参加

野馬追ボランティア



北海道から参加

野馬追ボランティア



北海道から参加

野馬追ボランティア



北海道から参加

野馬追ボランティア



北海道から参加

野馬追ボランティア



北海道から参加

野馬追ボランティア



北海道から参加

野馬追ボランティア



北海道から参加

野馬追ボランティア



北海道から参加

野馬追ボランティア



北海道から参加

野馬追ボランティア



北海道から参加

野馬追ボランティア



北海道から参加

野馬追ボランティア



北海道から参加

野馬追ボランティア



北海道から参加

野馬追ボランティア



北海道から参加

野馬追ボランティア



北海道から参加

野馬追ボランティア



北海道から参加

野馬追ボランティア



北海道から参加

野馬追ボランティア



北海道から参加

野馬追ボランティア



北海道から参加

野馬追ボランティア



北海道から参加

野馬追ボランティア



北海道から参加

野馬追ボランティア



北海道から参加

野馬追ボランティア



北海道から参加

野馬追ボランティア



北海道から参加

野馬追ボランティア



北海道から参加

野馬追ボランティア



北海道から参加

野馬追ボランティア



北海道から参加

野馬追ボランティア



北海道から参加

野馬追ボランティア



北海道から参加

野馬追ボランティア



北海道から参加

野馬追ボランティア



北海道から参加

野馬追ボランティア



北海道から参加

野馬追ボランティア



北海道から参加

野馬追ボランティア



北海道から参加

野馬追ボランティア



北海道から参加

野馬追ボランティア



北海道から参加

野馬追ボランティア



北海道から参加

野馬追ボランティア



北海道から参加

野馬追ボランティア



北海道から参加

野馬追ボランティア



北海道から参加

野馬追ボランティア



北海道から参加

野馬追ボランティア



北海道から参加

野馬追ボランティア



北海道から参加

野馬追ボランティア



北海道から参加

野馬追ボランティア



北海道から参加

野馬追ボランティア



北海道から参加

野馬追ボランティア



北海道から参加

野馬追ボランティア



北海道から参加

野馬追ボランティア



北海道から参加

野馬追ボランティア



北海道から参加

野馬追ボランティア



# 侍の日常 漆



相馬野馬追には多くの侍が出陣し、勇壮な姿を見せます。しかし、1年に3日間のハレの日以外は、侍たちは鎧を脱ぎ、各々の仕事や学業に打ち込み、暮らしているのです。

## 深野聖馬 殿 (22) 役付：御使番



深野家は初代から野馬追に参加していく中で、私は19代目に当たります。初陣は4歳。生まれた時から家に馬がいて、野馬追に出るのは当たり前でした。最近は、若い世代で野馬追に出て、野馬追に馬と一緒にいる存在で、一緒にいる寂しさを感じています。Horse Value に来るお客様にも、その魅力を伝えたいです。

Value に来るお客様にも、その魅力を伝えたいです。一緒にいる寂しさを感じています。Horse Value に来るお客様にも、その魅力を伝えたいです。

my favorite MIYAGE  
at Minamisoma



その  
5

### 菓夢菓夢亭

カトム 菓兎夢

ちょっとした差し入れに、とっておきの贈り物に、メイドイン南相馬の一品はいかがでしょう？ 南相馬市で暮らす人々に、おすすめのおみやげと理由を教えてもらいました。

うさぎがプリントされたかわいららしいパッケージに包まれたダックワーズ。さっくりしっとりとした柔らかく軽い食感、中のクリームからはバターとアーモンドの風味が優しくしっかりと広がります。コーヒー・紅茶・日本茶とも相性の良い上品な甘みです。個包装になっているのでお土産にもぴったりです。



只野訓良さん  
オーナー

### Shop Information

所在地 〒975-0015 南相馬市原町区国見町2丁目63  
電話番号 0244-24-3638

# なんだが気になるみなみざま

2024 Summer  
Minamisoma Topics

旬のニュース、意外と知らないことっておきの話などなど「なんだか気になる」南相馬市の話題をピックアップ！



▲明治時代後期。梅雨時期の野馬追



▲昭和40年、異例の4日間開催時のポスター



▲江戸時代後期の「奥州相馬妙見祭野馬追之図」でも毎年五月申中と表記がある

じりじりと照りつける太陽の下、毎年7月に開催されてきた相馬野馬追ですが、猛暑を避けるため、2024年より5月の最終土・日・月曜日に日程を変更。過去にもさまざまな事情で日程変更されてきた野馬追の歴史について、南相馬市博物館学芸員の二上文彦さんに詳しく教えてもらいました。

## 相馬野馬追 日程変更の変遷

江戸時代の野馬追は、相馬家の年中行事として、旧暦「五月中の申」の日を中心に三日間開催していました。旧暦5月は別名「午の月」であり、「申(猿)は午(馬)の守り神」という理由で、この日程に定まつたようです。しかし、当主の病気や幕府からの課役などで、少なくとも20回は日程変更された記録が残っているそう。「当時の方が柔軟に対応していたのでは」と二上さんは考察します。

明治時代に廢藩置県が行われると、野馬追は武家行事から神事へ変化し、暦も新暦に改まります。明治7年には旧暦に沿って7月1・2・3日に開催、それから約90年間は、梅雨時の天気に悩まされながらも7月の野馬追が続きました。雨を避け、より多くの人が参加しやすいようにと日程は徐々に後ろ倒しに。しかし、真夏の催しになつたことで悩みのタネは暑さに変化したのです。そして今年、歴史上一番早い5月の開催に。この変更は功を奏し、人馬ともに無事閉幕を迎えるました。

気候のみならず、時代の流れや戦争、大災害などで文化が途切れ可能性も大きいにあつたはず。「どんな時も『野馬追が好きだからやろう』という人たちがいたから続いてきたのだと思う」と二上さんは語ります。爽やかな時期の開催により、観客は1万人ほど増えたそう。脈々と続いてきた野馬追の風景は、今後より多くの人で賑わうことでしょう。



南相馬市博物館  
学芸員  
二上文彦さん

学芸員として相馬地方の歴史を研究するかたわら、相馬野馬追保存専門委員として、野馬追の保存・伝承の指導にも携わる。

江戸時代	旧暦の変遷史
平成23年～ 令和5年	7月1・2・3日 梅雨時の開催を避けるため日程を10日後に変更。
昭和41年～ 平成22年	7月16・17・18・19日 四日間開催にして、より多くの人に楽しんでもらう案。
昭和36～40年	7月23・24・25日 観客増を目的とし、学校の夏休み期間に日程を変更。
明治37年～ 昭和35年	7月11・12・13日 廃藩置県後、相馬家の武家行事だった野馬追が太田神社の神事として復活。以降、この日程で固定。
明治7～36年	7月11・12・13日 6月下旬から7月初旬。

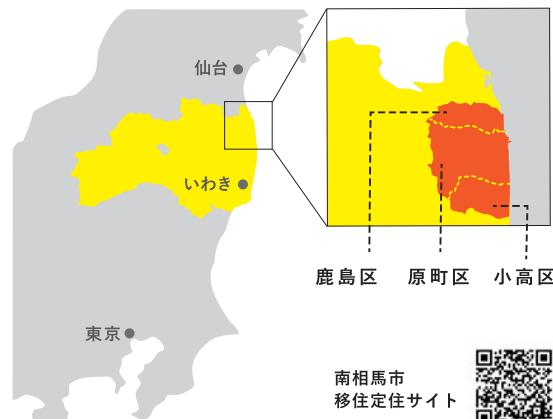
## 南相馬市のイベント

- |     |  |
|-----|--|
| 7月  | 13 [土] 北泉海水浴場 (~8/18)<br>土日祝はキッチンカーが出店(27-28を除く)   |
| 8月  | 27 [土] サマーフェスタ<br>@北泉海浜総合公園<br>北泉でキャンプ&ミュージック!   |
| 9月  | 3 [土] Surf Camp Night @北泉海浜総合公園<br>10 [土] かしまのなつまつり(かしま交流センター前)<br>17 [土] おだか夏まつり<br>KITAIZUMI Surf Camp Fes<br>@北泉海浜総合公園 (~8/18)<br>夏を締めくくる<br>キャンプフェス!                                     |
| 10月 | 7 [土] 南相馬市サポーターツアー (~9/8)  |
| 11月 | 4 [金] ロボテスフェスタ+WRSプレ大会 (~10/5)<br>12 [土] おだか浮舟まつり<br>13 [日] かしま産業祭(かしま交流センター前)<br>20 [日] 第81回 相馬野馬追振興秋季競馬大会<br>上旬 Kitaizumi Surf Festival 2024@北泉海岸<br>下旬 おだか群青コンサート<br>北泉で世界レベル<br>のサーフィンを! |
| 12月 | 3 [日] あきいち・交流自治体フェア<br>16 [土] あかりのファンタジーアイルミネーション<br>in おだか (~R7.1/13)   |
| 1月  | 1 [日] かしまのイルミネーション (~R7.1月中旬)<br>1 [日] 野馬追の里健康マラソン大会・ウォーキング<br>大会(申込期間 8/1 ~ 9/15)   |
| 12月 | 1 [水] 元旦神楽舞披露@野馬追通り銘醸館<br>12 [日] 火伏せ祭り<br>(鹿島御子神社・鹿島区旧国道沿い) (~1/13)  |

## 南相馬市とは？

南相馬市は福島県浜通り北部に位置し、温暖で降雪も少ない暮らしやすい地域です。東京からの距離は292km。いわき市と宮城県仙台市のはば中間にあります。

一千有余年の歴史をもつ国指定重要無形民俗文化財「相馬野馬追」が根づいている一方、未来への期待ふくらむロボット産業の集積や、若手起業家による地域に根ざしたなりわいづくりなど、新しいことが始まっているおもしろい地域です。



南相馬市  
移住定住サイト



南相馬市ふるさと応援寄付金サイトはこちら



## ミナミソウマガジンとは？

南相馬市の「いま」を伝えるため2019年1月に創刊した1号1テーマの特集と連載からなる会報誌です。読者は南相馬市のサポーター会員。サポーターには、市外に住んでいて南相馬市と関わりを深めたい方や移住を検討されている方なら誰でも無料で登録できます。南相馬市の情報や暮らしをお伝えします。

「ミナミソウマガジン」が届く！

『南相馬市サポーター』  
登録はこちらから



## ミナミソウマガジン

### 編集後記

アスファルトの上を歩く蹄の音、勇ましく響くサムライたちの声。気がつけば非現実的で壮大な世界に引き込まれていきました。すべての瞬間が、たくさんの人たちの努力と想いによって支えられ、それを近くで見られたこと、その瞬間に少しでも関われたことを誇らしく思います。こんなにもまち全体がひとつになる祭典に、私は出会ったことがありません（茨木）

2024 summer

発行元：南相馬市役所

統括編集長：高橋一善（南相馬市役所）

アートディレクション・デザイン：西山里佳（marutt Inc.）

編集・執筆：小野民、執筆：蔣田志保

写真：鈴木宇宙、齋藤亮太（marutt Inc.）

制作：

（南相馬市役所）大和田智之、和田真弥、鈴木のぞみ、茨木梨穂  
(一般社団法人 南相馬観光協会) 栗村文夫、五賀麻弓

発行日：2024年7月20日

問い合わせ：南相馬市サポーター事務局（南相馬市役所内）

〒975-8686 福島県南相馬市原町区本町二丁目27番地 / TEL : 0244-22-2111

<https://www.city.minamisoma.lg.jp/>